

○ 本校の概要

児童数283名、学級数12、教員数23名、今年度開校116周年を迎える地域に密着した学校である。地元の祭りや伝統的な行事への参加はもちろんのこと、干潟観察や書画の授業など、地域の方々と学校が一体となって子どもたちの健全育成に取り組んでいる。また、羽田空港に最も近い学校であり、総合的な学習の時間を用いたバリアフリーの学習やキャリア教育、空港イベントへの参加等、空港と日常的に連携を図り、学校教育に生かしている。また、東京都人権尊重教育推進校としての歴史は長く、近隣の高齢者団体や幼・保育園、障害者施設や食肉市場の方々と交流を通して、都の人権課題について積極的に学習に取り組んでいる。このように、本校は「地域力と国際都市おおた」の実践に意欲的に取り組み、「人権尊重教育」に力を注いでいる学校である。
また、学力向上においては、放課後補習教室や土曜補習教室（羽田っ子塾）、夏休みの補習教室などを利用し、日頃の学習の成果や学習効果測定などの結果を基に、全教員が力を合わせて指導に当たっている。進学検定では全ての児童が合格するまで指導し、学力効果測定の結果にもその成果が見られるようになってきている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	コメント
ブラン １ 未来社会を創造的に生きる子供の育	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にかなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成を図っている。 論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。 体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。 授業中に、自分の考えや感じたことを、友達に伝える能力の育成を図っている。	4:「自分の考えや感じたことを友達に言葉で伝えることができる」と回答した子どもの80%以上 3:「自分の考えや感じたことを友達に言葉で伝えることができる」と回答した子どもの70%以上 2:「自分の考えや感じたことを友達に言葉で伝えることができる」と回答した子どもの60%以上 1:「自分の考えや感じたことを友達に言葉で伝えることができる」と回答した子どもの60%未満	3	人権尊重教育推進校として、「関わり合い、認め合い、未来を拓く子供の育成」～自分の考えを上手に伝え、相手の考えを大切に受けとめる児童を育てる指導の工夫～をテーマに研究を進めてきました。 今後も、自分の考えをもち、相手に伝えるための思考ツールの活用や手立ての工夫を行っていきます。	児童数が少ないこともあると思いますが、様々な取り組みをしていただき、子どもたちは恵まれているなど感じています。今後も続けて頂きたいです。
ブラン ２ 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 朝学習の時間に漢字・計算学習を週一回必ず行っている。	4:算数ステップ学習プリント100点到達率90%以上 3:算数ステップ学習プリント100点到達率80%以上 2:算数ステップ学習プリント100点到達率70%以上 1:算数ステップ学習プリント100点到達率70%未満	4	全校で算数ステップアップ学習プリントを単元末に行い、100点になるまで直しをさせています。 ステップ学習チェックシートや学習効果測定等の結果を基に三者面談を行い、保護者と連携を図り学力の向上を図っていきます。	児童アンケートの結果では、「宿題を忘れずに行っている」児童が93%もあり、学習プリントも100点になるまで指導していただいているのに、学力が定着しないのはなぜなのか。学校での指導だけでなく、児童のやる気と保護者のやる気がなければ、学力の向上は難しいと思いました。
ブラン ３ 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。 自分から進んで挨拶しようとする意識を高め、学校や地域での挨拶の取組を実施する。	4:「自分によいところがある」と思うと回答した子どもの割合90%以上 3:「自分によいところがある」と思うと回答した子どもの割合85%以上 2:「自分によいところがある」と思うと回答した子どもの割合80%以上 1:「自分によいところがある」と思うと回答した子どもの割合80%未満	3	「学校生活調査」を各学期に実施し、児童の心の状態を把握しています。 結果によって、担任、カウンセラー、各関係諸機関と連携を図り、学校全体として組織的に対応していきます。	児童アンケートの「自己肯定感」の結果で、1年生に低い児童が数名いるが、学年を重ねることに良い結果に変化しており、学校の取り組みの成果があらわれていると感じました。心を養い、人格の基礎をつくる時期が小学生時代だと思います。父母・学校・地域が児童の人格形成に責任感をもって関わり、友だちの良いところを見つけられる心優しい人間になって欲しいと思います。
ブラン ４ 体力増進の向上と健康の	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。 健康・体力増進の取り組みとして、持久走に重点をおき、校内マラソン大会に向けて授業等で持久走に取り組んでいる。	4:持久走個人内記録を更新した子どもの割合80%以上 3:持久走個人内記録を更新した子どもの割合70%以上 2:持久走個人内記録を更新した子どもの割合60%以上 1:持久走個人内記録を更新した子どもの割合60%未満	4	「マラソン大会」に向けて、校内持久走週間に取り組むと共に、通年活動としての「マラソンタイム」を開始しました。 校庭に「ストラックアウト」も設置し、施設面でも体力向上に向けて充実させていきます。	「マラソン大会」はとても良い活動だと思います。体を動かすことの少ない子どもたちが、一生懸命に走る姿に感動しました。 また、「大田区駅伝大会」の上位校の話を聞くと、練習の距離が異なり、気合が入っているなど感じました。地域の陸上経験者の協力を得るなど、本校ももう少し上位を狙えるように工夫が必要だと思いました。
ブラン ５ 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施し、OJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 研究・研修等を受講したものを全体の場にて伝達している。	4:「教師は、授業や補習で子どもに基礎・基本を理解させている」と回答した保護者の割合85%以上 3:「教師は、授業や補習で子どもに基礎・基本を理解させている」と回答した保護者の割合75%以上 2:「教師は、授業や補習で子どもに基礎・基本を理解させている」と回答した保護者の割合65%以上 1:「教師は、授業や補習で子どもに基礎・基本を理解させている」と回答した保護者の割合65%未満	4	全教室に配置されたICT機器を活用し、デジタル教科書を用いた授業やタブレットを用いた授業に取り組んでいます。 タブレットを各階に配置し、より使いやすい環境を作り、活動の充実を図っていきます。	保護者アンケートの「教師は授業や補習で子どもに基礎・基本を理解させている」の設問に、そう思わないと回答した保護者が少数ではあるがいたので、これが0%になるとよいと思います。基礎・基本を子どもたちに理解させ、落ちこぼれのないようにしてもらいたいです。
ブラン ６ なつて学校も家庭も一体と	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に関わった教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。 子どもの学力向上のために適切な家庭学習を出し、指導を図る。	4:学級において、家庭学習を忘れずに提出している児童の割合90%以上 3:「教師は、授業や補習で子どもに基礎・基本を理解させている」と回答した保護者の割合80%以上 2:「教師は、授業や補習で子どもに基礎・基本を理解させている」と回答した保護者の割合70%以上 1:「教師は、授業や補習で子どもに基礎・基本を理解させている」と回答した保護者の割合70%未満	4	小中一貫教育の重点課題として、3校で家庭学習の充実を図っています。 児童の実態を踏まえ、各学年×10分+10分を目安に、主体的に家庭学習に取り組めるよう、高学年で自主学習を取り入れるなど内容を工夫していきます	たくさんのイベントプログラムを抱え、地域の方、父母等に成果を発表していただき、先生方の努力に感謝しています。 保護者アンケートの結果で、「家庭では子どものノートや宿題をよく見ている」の結果が69%で、他の設問の中で最下位でした。親の意識をどう変えていくかが問題だと思いました。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可